

# 令和2年度 事業計画



## 千葉科学大学

「健康で安全・安心な社会」の構築に貢献できる人材の養成を行う



本学は、「健康で安全・安心な社会の構築に寄与できる人材の養成をすること（教育目標）、それらの探究を進めること（研究目標）、地域と共生する大学づくり、平和で文化的な地域づくりへ参画すること（社会貢献の目標）」を大学の目標としています。

本学は、2016年に「10年後における千葉科学大学のあるべき姿（将来像）」として「CIS Vision 2026（中期目標を含む）」を設定しました。このビジョンは【Ⅰ】教育改革、【Ⅱ】研究推進、【Ⅲ】学外連携・地域貢献、【Ⅳ】総合的學生支援、【Ⅴ】大学運営と内部質保証の5項目より構成されており、このビジョンの実現に向けて策定した中期計画に基づいて事業計画を推し進めています。4年目となる今年度の事業方針と重点事項を以下のように設定しました。

**Ⅰ. 教育改革** 初年次教育においては、留学生に対する日本語教育を充実させます。リメディアル教育では、スタートアップセミナーを実施し、確認試験において効果検証します。また、教学マネジメント推進のため、新たに委員会を設置し、学修成果・教育成果の可視化に向けてデータを収集します。大学院教育においては、引き続き教育プログラムの改善に取り組むとともに、社会人の受け入れ体制を整備していきます。

**Ⅱ. 研究推進** 各学部において科研費等の競争的資金申請を推進するほか、本学が重点研究対象に掲げている「好適環境水等の新技術を応用したブランディング事業」に関わる研究を飛躍的に発展させるよう取り組んでいきます。

**Ⅲ. 学外連携・地域貢献** 学外連携プロジェクトとして、社会人（動物看護師等）を対象としたeラーニングによる履修証明プログラムや、新たな社会人を対象とした履修証明プログラムを開講するほか、外部機関と共催する公開講座などを開講します。また、地（知）の拠点として包括連携協定先を近隣市町村に拡充し、産学官連携事業を展開していきます。

**Ⅳ. 総合的學生支援** 全学生に対し、チューターによる修学状況等の面談を行い、学生の学修生活の改善を促します。また、就職支援・公務員試験対策として、新たに就職適性検査や面接対策特別講座を取り入れるほか、国家試験対策においてもさらに充実させます。そのほか、課外活動活性化のための支援や留学生支援を充実させるとともに、学生が満足できるキャンパスの整備に引き続き取り組んでいきます。

**Ⅴ. 大学運営と内部質保証** アセスメントポリシーに基づいた3つのポリシー達成状況評価から問題点を検出するとともに、ポリシーを適正に達成するための改善策を策定します。また、各学部と連携して3つのポリシーに基づいた教育の質に係る自己点検・評価を全学的に行います。教職員の人材育成では、eラーニングを含むICTを用いた講義の導入を加速させるためのFD活動を行うほか、教員も対象としたSD活動として、法人全体で行っている人材育成プログラムも取り入れながら、業務に直結する専門性のあるSD研修を計画・実施します。

千葉科学大学 学長 木曾 功

## 【 I 】 教育改革

教育の質保証を目指した教学マネジメントを適切に機能させ、学生の多様なニーズ、時代の変化に対応した教育プログラムの充実を図り、それぞれの専門分野において、自分の進路に対する明確な目的を持った、安全・安心な社会の構築に寄与する優れた人材を育成することを目指します。

### 1. 大学の教育改革に関する目標

中期計画	令和2年度事業計画
① 初年次教育の組織的展開	<b>【 I-1-1】</b> ・留学生に対する初年次日本語教育を充実させる。
② 入学前・リメディアル教育の充実	<b>【 I-1-2】</b> ・令和2年度スタートアップセミナー（春学期、秋学期）を実施する。 ・セミナー実施中、並びにセミナー終了後の確認試験により講義内容の定着度を調べ、効果を検証する。
③ 実効性のある教学マネジメントの推進	<b>【 I-1-3】</b> ・教学マネジメント委員会を立ち上げ、教育目的を達成するために学修成果・教育成果の可視化が可能となるようなデータを収集する。
④ キャリア教育対策	<b>【 I-1-4】</b> <b>【薬学部】</b> ・1～4年次では早期体験学習などキャリア意識を育むための科目が、5～6年次では、実務実習など現場体験を重視したプログラムや課題解決能力を養う科目が配置されている。まず、これら現行カリキュラムが機能し、卒後、社会人としての自立に寄与しているのか検証を行う。 <b>【危機管理学部】</b> ・学部共通科目であるキャリアデザインⅠ・Ⅱを通して様々な分野で活躍している人材並びに卒業生による、職業教育を実施する。 ・各学科に対し、選択科目である就業力育成特論受講の啓発を行い、受講率の向上を目指す。 <b>【看護学部】</b> ・本学部では、保健師・看護師国家試験受験資格ならびに、養護教諭1種の免許取得に必要な教育課程編成がなされており、教育課程全般にわたり必要なキャリア教育対策を実施しており、その向上を目指す。
⑤ 愛校心（帰属意識）の高揚教育・育成	<b>【 I-1-5】</b> ・同窓ネットワークの構築を目指すため、銚子市内勤務又は千葉県等近隣在住のOB・OGと在学生と

	の交流会を新たに実施する。
<b>2. 大学院の教育改革に関する目標</b>	
中期計画	令和2年度事業計画
① 大学院教育の充実	<p>【I-2-1】</p> <p>【薬学研究科】</p> <p>1. 大学院教育の充実</p> <p>①薬学専攻について、より臨床的な課題を対象とする研究領域を中心に、薬剤師に焦点を当てた医療薬学に関する教育研究の充実を検討する。</p> <p>②大学院学生の主任指導教員だけでなく、複数の教員による教育研究指導體制を整備する。</p> <p>③期間内で学位論文を提出し、修了要件をクリアできるように入学時からのオリエンテーション、サポートを充実する。</p> <p>2. キャリアサポート</p> <p>①修了後の学生が、自立した薬学研究者として社会で活躍できる能力をキャリアへの活かすことができるようサポートする。</p> <p>3. 学生確保</p> <p>①入学者確保に向けた戦略を立案する。</p> <p>②薬科学専攻に関しては、生命薬科学科の募集停止に伴い、存続を含めて研究科で議論と検討を実施する。</p> <p>【危機管理学研究科】</p> <p>1. 大学院教育課程の見直し</p> <p>①危機管理学研究科サテライト教室総合危機管理学コースのカリキュラムおよび履修方法の検討を行う。</p> <p>②危機管理学研究科サテライト教室総合危機管理学コースの修了要件の見直しについて検討を行う。</p> <p>③危機管理学研究科として現代的課題（自然災害、人為災害など）のニーズに対応した質の高い取組み支援プログラムを構築する。</p> <p>2. 教員の研究指導能力の向上</p> <p>①課程の目標や教育方法などについてFDを実施する。</p> <p>②教員評価の実施を検討する。</p> <p>3. 地域連携活動の推進と地域発展への貢献</p> <p>①大学院教育と地域社会のニーズをマッチングさせる。</p>

	<p>②地域からの社会人大学院生の進学システムを構築する。</p> <p>4. 大学院進学者の確保</p> <p>①昨年に引き続き大学院で取得できる実現可能な資格に絞ってさらなる検討を加える。</p> <p>②学内からの入学生増加の方法について検討する。</p> <p><b>【看護学研究科】</b></p> <p>1. 学生の学修支援の強化</p> <p>①入学前にオリエンテーションを実施し大学院研究科の履修や就業との両立についてイメージできるような支援をする。</p> <p>②大学院設置基準第 14 条における教育方法の特例により、社会人に配慮した日別時間割作成を継続する。</p> <p>③計画した期間内で修士論文を提出し、修了できるようサポートする。</p> <p>④学生本人が、修士課程修了後のキャリアへの活かし方や組織・地域への貢献の仕方について構築できるようサポートする。</p> <p>⑤個々の院生の背景やニーズに合わせた履修が可能な科目構成とする。</p> <p>⑥学生の学修環境の向上を図る（院生講義室・院生室など）</p> <p>2. 研究科組織の安定運営</p> <p>①学内審査により、大学院教育に関与できる教員数の増加を図る。</p> <p>②より円滑な運営のために委員会構成を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文の研究計画書作成に関しては、従来の研究計画検討委員会に代わるものとして、教務委員会内に「研究計画検討会」を設置する。</li> <li>・研究計画書の倫理審査に関しては、従来の看護学研究科倫理審査委員会に代わるものとし「千葉科学大学ヒトを対象とする研究倫理審査委員会」にて研究倫理審査を受ける。</li> </ul> <p>③個々の教員の能力が十分発揮できる組織にする。</p> <p>④研究分野・科目構成の見直を図る。</p> <p>3. 入学生の安定確保</p> <p>①入試日程に合わせて「社会人学び直し研修」を実施する。</p>
--	--

	<p>②入試は二次募集を実施する。</p> <p>③入試では、「社会人特別選抜」の入試科目内容について再検討する。</p> <p>④色刷りのパンフレット・入学試験要項を千葉・茨城県内約 100 施設に送付する。</p> <p>⑤学部卒業生が 2021 年度には卒後 3 年目を迎えるので、卒業生が就職した施設にもパンフレットを送付する。</p> <p>⑥オープンキャンパスでは、研究科紹介する企画を工夫する。</p> <p>⑦各施設への研究科への関心が高まるような看護研究指導を行う。</p> <p>⑧看護実践連携研究科会開催時に研究科を紹介できる工夫を行う。</p> <p>⑨科目等履修制度について検討する。</p>
<p>② 社会人の受け入れ体制の整備</p>	<p>【I-2-2】</p> <p>【薬学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人の受け入れについて、製薬企業、病院を含む医療機関について小規模な聞き取り調査を実施して、社会人の需要の有無について検討する。</li> <li>・社会人の受け入れ体制について検討する。</li> </ul> <p>【危機管理学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合危機管理学コースの存続を含め研究科で検討する。</li> <li>・完成年度を迎える医療マネジメントコースの評価と改善を行う。</li> </ul> <p>【看護学研究科】</p> <p>1. 個々の教育プログラムの適正化：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 共通科目が終了した時点で、漸次院生に授業評価を行い、内容や開講時期などを点検する。</li> </ol> <p>2. 個々の学修状況の把握と効果的な学びを可能にする指導：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学修内容が学生の背景や修了後のニーズと適合するような科目選択を指導する。</li> <li>② 教員（非常勤講師）には科目終了時に、学生に対しては、春・秋学期オリエンテーション時にヒアリングを行い学修状況や個々のニーズの把握に努める。</li> </ol> <p>② 高度実践看護師教育課程を継続する。</p>

## 【Ⅱ】 研究推進

外部資金獲得のためのサポート体制などの環境が整備され、多くの教員が研究活動を推進させて外部資金を積極的に獲得するとともに、本学独自のいくつかの研究分野において、国内外から本学が重要な研究拠点になることを目指します。

### 1. 研究活動の推進・充実に関する目標

中期計画	令和2年度事業計画
① 研究活動に係る補助金（科研費等）の積極的な獲得	<p>【Ⅱ-1-1】</p> <p>【薬学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検評価面接あるいはFD講演会にて外部研究資金獲得への指導をする。</li> <li>・外部研究資金申請に関する説明会を実施する。</li> <li>・学術論文発表を積極的に働きかける。</li> </ul> <p>【危機管理学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科研費および外部資金獲得に向け、学部として推進する。また、危機管理学部教員自己点検・評価時の面接においても補助金獲得の推奨を行う。</li> </ul> <p>【看護学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内科研費は元より、科研費を含めた外部資金獲得への指導を年度初めの自己点検評価面接時に実施し、年度末にその成果報告を受ける体制を継続する。</li> </ul>
② 外部資金獲得のための環境整備	<p>【Ⅱ-1-2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き、研究支援を紹介するホームページの整備を行い、補助金公募情報の活用を工夫する。</li> </ul>

### 2. 本学独自の研究分野における研究拠点の構築に関する目標

中期計画	令和2年度事業計画
① 「好適環境水」等の新技术を応用したブランディング事業の推進	<p>【Ⅱ-2-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代型陸上養殖施設の運用について見直しを行う。</li> <li>・好適環境水を用いた陸上養殖技術開発試験を行う。</li> <li>・モクズガニの種苗を生産する。</li> <li>・陸上植物・廃棄食材等の効率的飼料を用いた、水生生物（ウニ等）の飼育試験を行う。</li> </ul>

## 【Ⅲ】 学外連携・地域貢献

大学が地域社会における様々な産官学連携プロジェクトの中核となり、地場産業の振興や人材の育成に寄与し、地域活性の中核を担う存在になることを目指します。

### 1. 積極的な学外連携プロジェクトの展開に関する目標

中期計画	令和2年度事業計画
—	<b>【Ⅲ-1-1】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年通り県内及び本学近隣地域を主な対象とした外部機関と共催する公開講座等を開催する。</li> <li>・社会人の動物看護師を対象とした、e ラーニング形式による履修証明プログラムを銚子会場に加え、東京会場を新たに設けて開講する。さらに、新しいプログラムとして非臨床安全性評価人材養成プログラムを開講する。</li> </ul>
<b>2. 地域活性の核となる知の拠点の形成に関する目標</b>	
中期計画	令和2年度事業計画
① 地（知）の拠点整備事業（COC）の実施	<b>【Ⅲ-2-1】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉県北東部及び茨城県南東部の地（知）の拠点として、これまで銚子市を中心として締結してきた包括連携協定を近隣市町村に拡充し、地場産業の振興や人材の育成に寄与できる産学金官連携事業を展開する。</li> </ul>
<b>3. 「地育・地就」実現のための環境整備に関する目標</b>	
中期計画	令和2年度事業計画
① 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の実施	<b>【Ⅲ-3-1】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・銚子市が各地方自治体と共催する『ジャパンチャレンジアワード』等の地域の新規産業参入、就職先の創生を目的とする活動に外郭団体として参画し、地方創生の取り組みに協力する。</li> </ul>

#### 【Ⅳ】 総合的學生支援

本学の学生に対して、学習面・生活面・就職面・経済面などのあらゆる面において、強力な総合支援体制を整備・充実させ、質の高い教育支援環境を提供することを目指します。

##### 1. 学習支援体制の充実に関する目標

中期計画	令和2年度事業計画
① 学生ポートフォリオシステムの効果的活用による学習支援策の充実	<b>【Ⅳ-1-1】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チューターは全学生に対し、修学状況等に関する面談を行い、面談記録をポータルサイトに入力集約する。この活動を通じて学生の学修生活の改善を促す。</li> </ul>

##### 2. 経済支援制度の整備・充実に関する目標

中期計画	令和2年度事業計画
① 効果的な経済的支援策（奨学金制度等）の整備・充実	<b>【Ⅳ-2-1】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等教育無償化制度の発足に伴い、本学独自の経済的に修学困難な学生に対する授業料減免制度</li> </ul>

	は廃止する。今後、高等教育無償化制度の条件から逸脱した場合は、学内で制度復活を審議する。
<b>3. 就職支援体制の強化に関する目標</b>	
中期計画	令和2年度事業計画
① 戦略的就職支援策の整備	<b>【IV-3-1】</b> ・全学就職内定率 97%（前年度と同じ）を目指すため、これまで実施してきた就職ガイダンスに加え、新たに就職適性検査を希望者を対象として実施する。
② 公務員試験対策の強化・合格数増加	<b>【IV-3-2】</b> ・公務員採用試験合格者 70 名（前年度と同じ）を目指すため、これまで実施してきた面接対策や小論文対策に加え、新たに面接対策特別講座を希望者を対象として実施する。
③ 国家試験対策の充実・合格数増加	<b>【IV-3-3】</b> <b>【薬学部】</b> ・前年度の結果を点検し、その結果に基づいて対策を実施する。 ・低学年から国家試験を見据えた対策の強化（オープン試験、共通オフィスアワー） ・学力別対応（グループ分けし、下位者対応を強化する）。 <b>【危機管理学部】</b> ・自発的な勉学促進のため学生国家試験委員を選出する。 ・国家試験全国平均以上の合格率を目指し、国家試験補習講義を充実させる。 <b>【看護学部】</b> ・国家試験対策を1年次より計画的に実施する。 ・1・2・3期生の4年間の国家試験対策の評価を行い、4期生以降の国家試験対策に反映する。 ・4年次生のうち国家試験対策の遅れている学生への計画的な早期対応を行う。
<b>4. 学生生活の支援対策の整備に関する目標</b>	
中期計画	令和2年度事業計画
① 学生の健康維持・管理に関する支援策の整備・充実	<b>【IV-4-1】</b> ・障がいのある学生に対する健康支援の実施内容を調査し、集計して問題点に対する改善策を策定し、改善する。 ・受動喫煙防止のための継続的な教育と新しい知見



	<p>等を情報発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいウィルス等の感染防止のために病院・保健所・感染研究所などからの情報を入手し、速やかに情報伝達し学内感染を予防する。</li> </ul>
② 課外活動活性化のための積極的な支援	<p>【IV-4-2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学祭について学生と教職員との協働は継続して実施する。</li> <li>・大学祭での集客を目指し、大学祭期間中に使用できる割引券をオープンキャンパスで来学した高校生に配布することも継続して実施する。</li> <li>・クラブ活動や大学祭が盛んに行われるよう、活動実績のないサークルは大学祭に参加するよう学友会会則を変更したため、活動実績の報告、確認を徹底する。</li> </ul>
③ 学生寮の完備・充実	<p>【IV-4-3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寮内トラブルを防ぐため、引き続き寮のオリエンテーションを実施する。</li> <li>・学生課職員による巡回を定期的に行う。</li> </ul>
④ 留学生支援の強化	<p>【IV-4-4】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生数増加に伴い、受入体制の整備を行う（寮、入管申請、学生管理、日本語教育等）。</li> <li>・プレースメントテスト時に併せてアンケートを実施する。</li> <li>・日本語能力の向上、均一化を図るべく1年次の日本語授業を充実させる（具体的には、現行の日本語Ⅰ、日本語理解Ⅰに加えて、週4回1限目に「日本語基礎」及び「N1指導」を行う）。</li> <li>・留学生委員会及び留学生委員会ワーキンググループを定期的に行い、全学的に問題点の改善を検討する。</li> <li>・銚子市国際交流協会と連携し、地域コミュニティーと積極的に交流を図る。</li> </ul>
⑤ キャンパス整備	<p>【IV-4-5】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本部キャンパス食堂にソファと本棚を設置し、くつろぎのスペースを創る。</li> </ul>

## 【V】 大学運営と内部質保証

大学のマネジメント体制を充実・強化し、優秀な学生の確保と教職員に対する計画的で効果的な人材確保・育成を実践することを目指します。また、PDCA サイクルが適正に機能する実効性のある自己点検評価体制を整備して内部質保証システムの確立を目指します。

### 1. 大学のマネジメント（運営管理）体制の充実・強化に関する目標

中期計画	令和2年度事業計画
① 意思決定プロセスの整備・迅速化	【V-1-1】 ・統合した部署の意思決定プロセスを見直し、迅速に動く体制を構築する。
② 教学マネジメント体制の充実	【V-1-2】 ・アセスメントポリシーに基づき3つのポリシーの達成状況を評価し、問題点を抽出する。3つのポリシーを適正に達成するため改善策を策定する。
③ 大学事務業務の効率化	【V-1-3】 ・業務効率をアップさせることを目的に、各部署の内容を全職員に把握させ、職員同士、忙しい時には助け合いができる体制を構築する。
④ 危機管理体制の整備・運用	【V-1-4】 ・年次計画に沿って飲料水・非常用食料等の備蓄等の非常時への対応を行う。 ・地震・津波避難訓練、防災訓練を通して、教職員に非常時における対応を周知させる。
⑤ 適正な学部学科構想の検討	【V-1-5】 ・昨年度に引き続き、外国人留学生の受入拡充、大学院の社会人受入体制の強化を行う。 ・航空業界を中心とした現場で活躍できる人材の養成を目指し、危機管理学部航空技術危機管理学科に新たなコースを展開する。
<b>2. 戦略的広報対策に関する目標</b>	
中期計画	令和2年度事業計画
① 学生募集のための効果的な広報対策	【V-2-1】 ・ネット広報を強化する。 ・新パンフレットを4月に完成させ、全国の高校に発送する。 ・各学科リーフレットを入試広報室で作成、タイムリーに適所に配布する。 ・留学生マーケットへの進攻と受け入れ体制を構築する。
② 一般広報対策	【V-2-2】 ・担当者を決めて、毎月ホームページのチェック作業を実施する。 ・オンラインプレスリリースを1ヶ月3本以上発信する。
③ 高大連携事業の推進・拡充	【V-2-3】 ・高大連携推進協議会による高大連携推進教育研究

	交流会を開催し、参加者（高校教諭と本学教職員等）との交流を緊密にし、継続的な連携（出張講義等）に繋がる取り組みを行う。
<b>3. 入学者の確保・退学者等の減少に関する目標</b>	
中期計画	令和2年度事業計画
① 優秀な学生の確保・入学者数の増加	<b>【V-3-1】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者数を増加させることを目的に、入学者選抜方法を見直す。</li> <li>・優秀な学生を確保することを目的に、入試特待生制度に関する広報活動を適宜実施する。</li> <li>・ホームページを介して、ブランド力向上に繋がる情報を適宜発信する。</li> </ul>
② 退学者減少のための対応整備	<b>【V-3-2】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必修科目を2回欠席した学生には、教務課より電話等によって注意を行い、学生の現状把握及び学修意欲の向上を促す。</li> </ul>
<b>4. 教職員の人材育成・確保に関する目標</b>	
中期計画	令和2年度事業計画
① 教員対象の組織的FD活動による人材育成	<b>【V-4-1】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Moodleを含むICTを用いた講義の導入を加速するためのFD講演会やFD講習会を開催する。</li> </ul>
② 専門性、年齢、性別等の構成を考慮した計画的な 人材確保	<b>【V-4-2】</b> <b>【薬学部】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性・年齢・性別等の構成のアンバランスを是正する計画を学部長、学科長など執行部で検討・立案する。</li> </ul> <b>【危機管理学部】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理学部の現状は、教員の高齢化が進み、かつ女性の教員の割合が少ない。教員の新規採用時には、学部・学科の将来構想及び年齢、性別等を考慮した人選を行うことを検討する。</li> </ul> <b>【看護学部】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度のカリキュラム改正に向けて、カリキュラム内容の検討並びに、即した人材育成・確保を図る。</li> <li>・退職者の早期把握と、計画的な補充を行う。</li> </ul>
③ 教職員の自己点検制度の確立・運用	<b>【V-4-3】</b> <b>【薬学部】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度検討した教員評価制度を基に自己点検・評価を実施する。</li> </ul>

	<p><b>【危機管理学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度各学科で実施した教員評価制度をまとめ、実施の妥当性について検討し、改訂したものを実施する。</li> </ul> <p><b>【看護学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度より行っている自己点検・評価を継続して実施する。</li> </ul>
④ 職員対象のSD活動を通じた計画的な人材育成	<p><b>【V-4-4】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人全体で行っている人材育成プログラムも取り入れながら、業務に直結する専門性のあるSD研修会を計画し、実施する。</li> </ul>
<b>5. 内部質保証システムの構築・運用に関する目標</b>	
中期計画	令和2年度事業計画
① 実効性のある自己点検評価体制の整備・運用	<p><b>【V-5-1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部と自己評価委員会・教学マネジメント委員会が連携し、3つのポリシーに基づいた教育の質に係る自己点検・評価を全学的に実施する。</li> </ul>

## 主な行事予定

4月3日	新入生オリエンテーション（中止）
4月4日～5日	新入生一泊研修（中止）
4月6日	在学生春学期オリエンテーション（中止）
4月7日	入学宣誓式（中止）
5月17日	看護の日（延期）
5月30日	看護実践連携研究会（中止）
6月14日	オープンキャンパス
7月18日～19日	オープンキャンパス
7月27日～8月8日	春学期定期試験
8月1日～5日	教員免許状更新講習会
8月22日～23日	オープンキャンパス
9月6日	教育進路懇談会（地方）
9月12日	教育進路懇談会（本学）
9月13日	オープンキャンパス
9月16日	在学生秋学期オリエンテーション
10月6日	就職懇談会（東京）
11月7日～8日	青澄祭（大学祭）
11月14日	学内業界研究会
11月28日	看護実践連携研究会
1月18日～30日	秋学期定期試験
2月5日	薬剤師の仕事研究会
3月25日	学位記授与式

## 学生・教職員数

### ■在籍学生数

(令和2年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数			収容定員	在学者数			
			留学生	社会人	留学生		社会人			
大学院	薬学研究科（博士一貫）	3	1	0	0	12	3	1	0	
	薬学研究科（博士）	5	0	0	0	15	0	0	0	
	薬学研究科（修士）	10	2	0	0	20	5	0	0	
	危機管理学研究科（博士）	3	1	0	1	9	7	0	7	
	危機管理学研究科（修士）	5	14	0	13	10	19	1	16	
	看護学研究科（修士）	5	1	0	1	10	8	0	8	
	大学院 計	31	19	0	15	76	42	2	31	
学部	薬学部	薬学科（6年制）	120	59	12	0	720	498	82	1
		生命薬科学科 (募集停止)	—	—	—	—	75	43	3	0
		計	120	59	12	0	795	541	85	1
	危機管理部	危機管理学科	120	126	61	0	440	316	84	0
		環境危機管理学科 (募集停止)	—	—	—	—	80	20	0	0
		医療危機管理学科	80	76	5	0	320	247	6	0
		航空技術危機管理学科	40	31	3	0	160	64	7	0
		動物危機管理学科	60	50	7	0	200	119	8	0
		計	300	283	76	0	1,200	766	105	0
	看護学部	看護学科	80	99	0	0	320	311	0	0
		計	80	99	0	0	320	311	0	0
	学部 計		500	441	88	0	2,315	1,618	190	1
	総合計		531	460	88	15	2,391	1,660	192	32
留学生別科		40	5	5	0	40	6	6	0	

(単位：人)

### ■教職員数

(令和2年5月1日現在)

学長	副学長	教授※	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員 計	事務職員
1	3	62	22	23	12	1	1	125	56

※学長・副学長除く

(単位：人)

## 財務関係

### ■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	令和2年度 予算額	令和元年度 決算額
教育活動 収支	収入	学生生徒等納付金	2,489,295	2,498,707
		経常費等補助金	253,256	252,740
		その他収入	79,721	147,034
		計	2,822,272	2,898,481
	支出	人件費	2,121,245	2,328,111
		教育研究経費	1,313,604	1,204,915
		管理経費	336,607	395,705
その他支出		0	3,277	
計	3,771,456	3,930,008		
教育活動収支差額			△ 949,184	△ 1,031,527
教活外	収入	受取利息等	5	4
	支出	借入金利息等	2,796	3,026
	教育活動収支差額		△ 2,791	△ 3,022
経常収支差額			△ 951,975	△ 1,034,549
特別	収入	資産売却差額等	720	1,269
	支出	資産処分差額等	0	4,420
	特別収支差額		720	△ 3,151
基本金組入前収支差額			△ 951,255	△ 1,037,700
基本金組入額合計			△ 212,199	△ 272,255
当年度収支差額			△ 1,163,454	△ 1,309,955